

認定看護師の役割と活動

第2回 『緩和ケア認定看護師』

社会福祉法人函館厚生院 函館中央病院

総合医療支援センター がん相談支援センター

けいら ちかこ
計良 千香子 様

令和2年9月掲載

現在、2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで亡くなる時代と言われています。がん患者さんやそのご家族は、身体や気持ちのつらさを抱えながら日々を送っています。そのつらさを和らげるお手伝いをするのが緩和ケア認定看護師の役割です。

「緩和ケア」という言葉を耳にすると、「終末期」をイメージされる方が多いように思いますが、今はがんと診断された時から緩和ケアを行うことの重要性が言われています。診断時から痛みなどの症状がある場合には鎮痛剤の処方となされ、病名告知による気持ちの落ち込みには心理的支援が行われます。治療期には抗がん剤や放射線治療の副作用の予防や対処が必要となります。がんの診断時から緩和ケアを並行して行い、がん治療を支えるとともに常に苦痛の緩和を目指しています。

院内の活動としましては、緩和ケアチームの看護師として患者さ

んのケアを行ったり、スタッフからがん患者さんのケアに関する相談を受けたり、院内でのがん看護・緩和ケアに関する研修を企画・実施しています。また、がん相談支援業務も行っており、患者さんやご家族から相談を受けたり、ピアサポートの活動であるがんサロン・がんヨガの運営にも携わっています。がんサロンは、同じ病気を持つ仲間との語り合いの場となっており、病気のことや治療のことなどについて話をし、仲間から元気をもらえる場となっています。がんヨガは、インストラクターもがんサバイバー（がんと診断された直後から治療中の人も含むすべての「がん体験者」のこと）であり、呼吸と笑顔をテーマに行っています。癒しの場であり仲間と会える場として機能しています。新型コロナウイルスの影響でどちらもお休みしていましたが、患者さんからの要望もあり、サロンに関しては7月から、ヨガに関しては8月から再開することといたしました。がん相談支援センターでは、どこの病院にかかっているかに関わらず相談することができます。実際、他院入院中の患者さんのご家族が相談にいらっしゃったこともありました。

地域での活動としましては、がん関連の認定看護師が参加している「道南がん看護研究会」にて、毎年5月に医療従事者向けに研修会を開催し、多くの方に参加していただいております。研修会を継続してい

くことで、多くの方にがん看護についての知識を広め、それぞれの施設での実践につなげることを目的にしておりましたが、残念ながら今年度は新型コロナウイルスの影響により開催できませんでした。

また、MOPN（南渡島地域包括緩和ケアネットワーク）の世話人としても活動しています。MOPNでは、市民の皆様向けに市民公開講座として、緩和ケアに関する最新的话题をお届けしています。しかし、こちらも新型コロナウイルスの影響により延期となっています。

市内にはたくさんの緩和ケアの仲間達が活動しておりますので、何かお困りの際はいつでもがん相談支援センターにお立ち寄りください。これからもよろしく願いいたします。

●現在、道南ブロック内では下記の病院に在職しています●

市立函館病院・函館五稜郭病院・函館中央病院・国立病院機構

函館病院・函館協会病院・函館おしま病院・森病院

認定看護師の役割と活動

第1回 『感染管理認定看護師』

日本感染管理ネットワーク北海道支部道南ブロック

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会病院

かめやま さとし
亀山 敏 様

令和2年7月掲載

感染管理認定看護師は、日本看護協会が認定する分野の中では最も多く、全国では約2,900人、道南地域では13名が活動しております。自施設の状況を評価し、感染予防対策やシステムを構築する役割があり、状況の確認や職員の研修など、日々奮闘しております。

他にも、診療報酬の感染対策加算などによって医師や薬剤師、検査技師とチームを組んで他の施設と連携を図り、地域の感染状況や情報交換のカンファレンスや研修会に加わっております。

道南地域は、北海道の中でも早くから地域での活動に取り組んでおり、毎年7月には研修会を開催し、医療機関や介護施設、グループホームなどに協力を賜り、多くの方々に参加していただきましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、開催することができませんでした。研修会を継続し、多くの方が感染予防、感染防止を理解し、施設に合った実践ができるようにつなげることを目的のひとつに掲げ

ておりましたが、残念ながら延期となりました。

この新型コロナウイルスは、これまでに経験がないほどの影響を及ぼしました。感染予防策の基本となる「標準予防策」の手指衛生や環境整備に必要な薬剤の不足、マスクやガウン、

ゴーグルなどの個人防護具の不足、咳エチケット、

リネンの処理や廃棄物、器材の消毒、従事者の

教育等、標準予防策の基本となることが、物の

不足によってできなくなりました。「いつものように」は、「当たり前のように」ではなくなりました。



しかし、良かったこともあります。感染対策として、小さな子供から高齢者まで標準予防策が浸透したことでした。手指衛生、咳エチケットは特に実感しました。マスクを着用していない人を見つける方が難しくなり、手指衛生用の擦式アルコール製剤は売り切れとなりました。マスクやフェイスシールドの作成が紹介されるなど、物が無い中での感染対策についても、毎日の報道の効果はすごいと感心いたしました。実践される方が多くなったことを率直に感じました。

主な感染経路は、飛沫感染と接触感染となっていますが、傷のない健康な皮膚の手が触れた場合や物に触れてもすぐに感染は起きません。

手指衛生を行えば感染は起こらないとされます。過剰すぎる感染予防策も心理面で疲れてしまいますので、理解してほしいと思います。

ウイルスの特徴として、これからも感染予防策として対応する状況が続くと思いますが、標準予防策は、「自分を守る」「身近な人を守る」ということを理解して忘れないでほしいです。

地域には、経験の豊かで相談できる感染管理の看護師がおります。これからも、我々の活動をよろしくお願いします。



●現在、道南ブロック内では下記の病院に在職しています●

市立函館病院・函館五稜郭病院・函館中央病院・国立病院機構

函館病院・函館新都市病院・共愛会病院・西堀病院・八雲総合

病院・函館市医師会病院